

みんなのスペース

ふみ 文箱

震災から数か月後、避難所にいたら、貴方の文箱が織笠体育館に届いてあるよ、半信半疑で体育館に行きましたら、まさか荒れ狂う大津波で、それが現実、奇跡でした。

読みおわると、文箱に、ときどき出して思いでにひたっていました。あけて見ると震災で亡くなった三人のレターも入っていました。

私たちを忘れないでと、云わんばかりに、文筆は茶の間に、靈魂がありますね。

あんな事こんな事、気兼ねなくお話ししましたね。向こう岸から見守って下さい。

私からのメッセージ

人のつながりが来世までと聞いたことがありますよ。
再会を 合掌

菊地サカエ(織笠・86)

震災から10年

震災から10年。長く感じた方、短く感じた方それぞれだと思います。悲しみ、苦しみがたくさんありました。でも、その中にかげがえのないもの、大切なものを考えることにもなりました。

山田では工事の進行状況や台風19号の被害など気掛かりな課題が残ります。被災者、町民の心のケアも大切です。

震災から10年、私にできることは漁業の仕事とSNSでの発信です。全国各地で災害、または新型コロナウイルス問題が発生しています。岩手県内でも感染者が多く出ています。危機感を持って対策にあたり、考えて行動しなければならないと思います。経済問題だけでなく、命に関わることなので自分自身も手洗い、うがい、消毒、マスクなどを徹底したいと思います。

山田が笑顔あふれる街になって欲しいと心から願います。

小林秀人(大浦・26)

やまだ文芸広場

山峡に 産声久し 露のたう

受月に あふれくるは 乳なれば

雫を待ちて 人は眠れり

年年の 季のはざまの 明るさに

小雀も生れ 木々のびている

内館 洋一(飯岡・78)

親兄弟

ともに暮らした あの頃が
今なつかしく 思ひださるる

昆 ユリ(織笠・89)

早朝窓ごしに
列車の灯りが
ふるさと方面に
コロナで遠のく
私の思いも乗せて

菊地 サカエ(織笠・86)

背:

背すじを伸ばし深呼吸。

背泳ぎして目指せ

五輪オリンピック。

春色:

桜満開、

夜桜満開、

花見酒、

シュガー(船越・43)

皆さんの投稿を お待ちしております!

「みんなのスペース」では、皆さんからの投稿や文芸作品、イラスト、写真などを募集しています。

左記の投稿規定を確認の上、郵送、直接持参または電子メールで、発行日(毎月1日)のおおむね1カ月前までにお申し込みください。

◆投稿規定 ▷住所、氏名(ペンネーム可)、年齢、電話番号を明記すること▷政治・宗教・営利を目的としたものや、特定の個人・団体をひぼう中傷するものは掲載できません▷行政広報として、掲載することが適当でないと判断されるものは掲載しません

◆あて先・問い合わせ 〒028-1392(住所不要)山田町役場総務課情報係(☎82-3111内線416/メールinfo@town.yamada.iwate.jp)へどうぞ。

町長室から

3月1日、山田高校の卒業式に出席した。卒業生49人のうち8人に皆勤賞、3人には精勤賞が贈られた。この賞の内容を聞き驚くことしきりである。皆勤賞は、3年間欠席・遅刻・早退・欠課がない生徒。精勤賞は、3年間欠席がなく、遅刻・早退・欠課は3回以内の生徒だという。さらに、この学年には不登校生徒が1人もおらず、校長先生の経験うえで初めてだというからまた驚いた。卒業生は、小学2年生の時に東日本震災を経験した生徒たちでもある。多くの困難を乗り越えてきた生徒たちに心からおめでとつと言いたい。過日の岩手日報に掲載された当町の特集記事には「このまちにはたくましさがある。懸命に前を向き、次世代に思いをつなぐ力だ」という言葉が添えられている。式中で校歌を歌う生徒を目にし、改めて教育の大切さを感じた。卒業生の皆さん、本当におめでとつ。

山田町長 佐藤 信逸